

構造センス育成講座 第6回 「ピロティについて」

前回、コルビュジェの近代建築の五原則について述べましたが、今回は五原則の内の一つ「ピロティ」について述べます。ピロティ (pilotis) は、言葉としてはフランス語です。意味は建物の一階を柱だけにし、吹き放しの空間を作る建築様式や、その空間自体のことを指します。現在では街を歩けば、多くのピロティ建築を目にすることが出来ます。1階が駐車場で2階が飲食店の建物がイメージしやすいと思います。有名なピロティ建築は、前回コラムで述べた「サヴォア邸」の他にも、数多くあります。



[写真：広島平和記念資料館（丹下健三：1955）]

[写真：愛知県立芸術大学・講義室棟（吉村順三：1966）]

[写真：街中のオフィス]

撮影：古久根 有二

ピロティのメリットは、デザイン性が高く見栄えがよい、ピロティ空間を利用出来る、などが挙げられます。また1階が柱だけのため、水害に対し強い建築との評価もあります。ピロティはデザイン用語でしたが、多くのピロティ建築が地震被害を受けましたので、構造的な意味も付与されました。

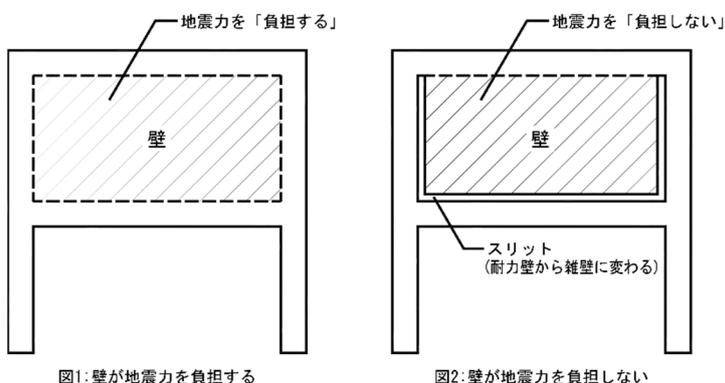


図1: 壁が地震力を負担する

図2: 壁が地震力を負担しない

従ってピロティには「意匠的なピロティ」と「構造的なピロティ」の意味が異なる二種類のピロティがあります。意匠的なピロティは、冒頭で説明した通り、見た目がピロティのことを指します。構造的なピロティとは、上階に地震力を負担する耐力壁があるが、その下階は柱だけで地震力を負担

する構造形式のことを指します。この逆の場合もあります。このことから、例えば2階建てであればピロティ上階の壁にスリットを設け、地震力の負担をなくしてしまえば、1階と2階は柱と梁で地震力を負担するため、バランスの良い建物になります。